

2012年

8月25日(土)

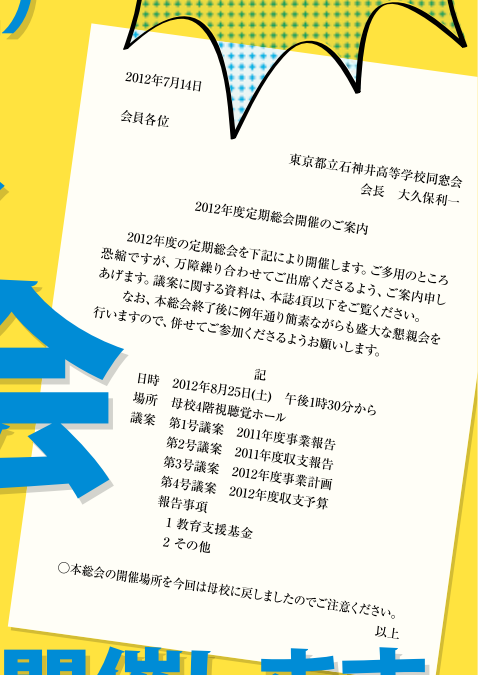
13時30分

2012年度

定期総会 懇親会

を開催します。

全員 集合ッ!



都立石神井高校
同窓会広報誌

「きずな」
第61号

2012年7月発行

もくじ

定期総会、懇親会開催のお知らせ	表紙	P 1
ご挨拶	P 2	
総会議案資料	P 4	
新会員(64期)幹事紹介、64期卒業生答辞	P 8	
同窓生を訪ねて	P 10	

本年度定期総会・懇親会を左記の通り開催いたします。
今年度は母校で！懇親会も一味違います。
 ●石吹OBと現役生徒のコラボ演奏 ●合唱部のミニコンサート(予定) ●懐かしい恩師の皆様もご招待予定
懇親会からの参加も大歓迎です。
 ご家族、同期を誘って、年に一度は母校に帰ろう！

記念に定期総会・懇親会に集合しよう!

今年20歳の62期の皆さん!!

今年30歳の52期の皆さん!!

今年40歳の42期の皆さん!!

今年50歳の32期の皆さん!!

今年60歳の22期の皆さん!!

日時	会場	会費
2012年8月25日 土曜日 定期総会：午後1時30分より 懇親会：午後2時30分より	定期総会：母校4階 視聴覚室(黒菱ホール) 懇親会：母校1階カフェテリア	1000円 (60期生・64期生は無料)

また、同窓会では、若手の皆さんの参加をお待ちしています。特に今年は、若い世代の絆を応援するという観点から、60期より若い方が懇親会出席の後に同期会を開催する場合、同窓会から会費の補助をいたしますのでご連絡ください。20名以上の同期会に2万円補助いたします。

東日本大震災その後(13期鈴木良一氏)	P 14
投稿記事	P 15
事務局便り、お知らせ	P 18
体育祭報告、編集後記	P 20

開催報告

黒菱山荘 50周年記念 唐松岳登山と 記念の集い

開催日時：2011年
7月21日(木)～23日(土)

唐松岳登山は7月22日(金曜日)同窓会、旧教員、PTAの方が参加しました。今回は林道が通行禁止のため、残念ながら、黒菱山荘には、宿泊できませんでしたが、16期石田さん経営のペンションスカラにお世話になり、21日には、合宿に来ていた生物部、美術部の現役生徒達と合流し、楽しい夕食会も開催されました。

22日当日は、石田さんの案内で出発。お天気は上々、合宿に来ていた生徒達も、途中八方池まで一緒に歩きました。少し雨に降りましたが、無事に唐松山荘に到着。お天気が悪く、満天の星空は、見る事が出来ませんでした。しかし23日のご来光：それは素晴らしいものでした。朝食後に唐松山荘を出発、無事下山し、麓では美味しい蕎麦で乾杯し、解散しました。

50周年の集いは23日(土曜日)18時より開催されました。お世話になっている対岳館には、丸山庄司氏、徹也氏を始め白馬村の方々、山寮協議会の各校の皆様、建設から現在まで山荘に携わられた多くの関係者が集い、山荘の50周年を祝いました。



モットーは「50分の授業を大切に～チャイムからチャイム～」 校長 竹内 秀一



石神井高校に赴任して1年間が経過しました。その間、感じた生徒の印象は素晴らしいエネルギーを持った生徒が多いということでした。とくに、学校行事や部活動などに向かうエネルギー、パワーには迫力を感じます。

そのエネルギーとパワーが勉学にも向かっていけば問題はないのですが、残念ながら調査によると2年生では家庭学習ゼロ時間という生徒が多いという結果が出ており、さらに3年になると、実力で入試を突破することを目標に頑張る生徒と「指定校推薦でいいや」ということで適当に過ごしてしまう生徒とに二分化してしまい、結局本人が希望する進路が思うように実現できないという現実があります。持てる力があるのに努力を続ける習慣が身につけていないのがとても残念です。

このような本校の生徒の現実を解消するため、学校としては、目下、様々な試みをしている最中です。とくに、進路指導に関しては、学年段階に応じた進路プログラムの編成や外部講師を招聘しての進路講話など、進路指導部と学年とが連携してきめ細かく指導していく体制を作っています。

今、学校として重点をおいて取り組んでいるのは「50分の授業を大切に～チャイムからチャイム～」ということです。授業開始のチャイムが鳴ったら、休み時間の気持ちを切り替えて終業のチャイムが鳴るまで授業に集中する。先生方全員が、この「気持ちの切り換え」と「集中」が実現できるように努めています。

昨年度は、これまでいろいろと課題のあった卒業式も肅々と行うことができました。入試の倍率は昨年度を上回り、相変わらずの人気校となっています。そして来年度の入学生からは、新しいカリキュラムがスタートします。また、制服を導入し、頭髪を染めたり脱色したりすることも禁止します。

来年度に向けてのキャッチフレーズを「伝統校、新たなステージへ」としました。重点支援校としての取り組みを財産に、新たなステージへと向かう石神井高校を楽しみにしていただければと思っています。

「モデル」を示して、生徒を伸ばす 副校長 くわはら ちかし 栞原 爾



今年4月に副校長として着任しました。よろしくお願ひします。着任前、石神井高校には「スポーツが盛んな伝統校」というイメージを抱いていました。このイメージはまさにその通りで、休日の学校は、部活動の掛け声などで普段よりもにぎやかです。

また、黒菱ホール（視聴覚室）を始めとし、いたるところにある同窓会の組織的な、有形・無形のバックアップに「伝統」を感じていると同時に感謝しております。

このような環境の中で学校生活を送っている生徒たちは、活発で、物おじしない、ポジティブな性格の持ち主が多く、好感がもてます。

ところで、このような石神井の生徒たちの進路希望を100%実現することが我々の重要な使命の一つです。近年、様々な取り組みにより、進路実績も上向いています。今後もこの上昇をさらに加速させていきたいと思っています。そのために今の石神井の生徒たちには、ただ勉強しなさいという指示だけではなく、具体的な「モデル」の提供が必要だと感じています。どんな勉強を、どこまで、どのようにやればよいのか、（多少の無理を伴いつつ）生徒たちが実行できる道標です。もちろん、最終的には「モデル」は各自でカスタマイズさせます。成果は簡単には現れてこないかもしれませんが、石神井高校の生徒たちのために、できることから始めたいと考えています。

ハード面の日々点検から

経営企画室長 中村 恭子



平成19年に新校舎が竣工してから三代目の経営企画室長になります。新任として70年以上の伝統ある石神井高校の特色を早期に把握して、微力ではありますが学校の益々の発展のために努力していく所存です。

本校の生徒は部活動、生徒会活動などなど実に元気一杯です。この生徒のエネルギーが十分に燃焼できるよう、学習環境の整備をすることも経営企画室長の大きな職務と考えています。

石神井高校は、広大な校庭、最新の設備が整った視聴覚室など、施設面では比較的恵まれています。先生方と連携して日々の点検を怠らないよう自戒して、生徒が十二分に施設を活用できるよう学ぶ環境を整える仕事に従事している毎日です。

教育支援と同窓会活動の一層の活性化めざして

同窓会会長 大久保 利一



大久保でございます。

昨年の総会にて、城前会長の後任として会長を拝命いたしました。これまでの歴代会長が積み上げられてきた実績を更に大きく、確実なものにしていくことがミッションだと認識しています。

言うまでもなく、同窓会は卒業生の任意団体ですが、伝統のある石神井高等学校の卒業生の世代を超えた情報交換が最も大切な機能です。これに加えて現在の生徒たちが伝統を引き継ぎ、勉強に部活に、また伝統継承の大切な一部を担う体育祭、文化祭活動に専念していけるように支援することなど多くの活動を進めてきています。

これらを更に活性化するために、前者は各期の幹事さんたちにお集まり頂き、各期の同期会、同級会などの活動との連携を図っております。後者は四年前に皆様にご協力頂いた教育支援基金を活用して、生徒たちの活動支援を行うことを進めています。支援基金は活動報告にありますように、生徒たちの外部活動への支援や、屋外活動用のテント、夜間活動のための校庭の照明の改修などの話を進めております。

開校70周年、黒菱山荘50周年といった大きなイベントは完了しましたが、教育支援や、同窓会活動の一層の活性化を地道に続けるために、役員各位と相談しながら努力してまいります。皆様の一層のご支援をお願いして新任のご挨拶とさせていただきます。

私事ですが、家族は私を含めて3名の同窓生が同窓会にはお世話になっています。また、仕事はこれまで40年以上携わった本業はリタイヤし、非常勤で大学講師や、役員、顧問などの形でお手伝いをしています。趣味としては合唱や社交ダンスなど、頭と体を使うことで老化を防止することにも努めています。



2011年12月ジュネーブでの合唱コンサート公演の前に
(六本木男声合唱団のT1 渡辺さん撮影)

2012年度定期総会 議案資料

1. 開催日時：2012年8月25日土曜日 午後1時30分
2. 開催場所：母校4階視聴覚ホール

議 題

- 第1号議案 2011年度事業報告
- 第2号議案 2011年度収支報告
- 第3号議案 2012年度事業計画
- 第4号議案 2012年度収支予算

報 告 事 項

- 1 教育支援基金
- 2 その他



第1号議案 2011年度事業報告

- 4月7日 母校入学式に顧問、会長、副会長列席
- 16日 同窓会の輪開催（井草、大泉、立川、豊多摩、武蔵丘、石神井が参加）
各校の状況報告、情報交換、今後の活動方針が話し合われた
- 27日 役員会開催（山荘50周年記念式典、総会、懇親会関係）
- 6月4日 母校体育祭視察
- 9日 役員会開催（きずな発行、総会、懇親会、山荘50周年記念式典関係）
- 7月1日 先生方との懇親会開催（先生12名が出席、更なる協力体制を確認）
きずな発行（会費納入についてのお願い文章を同封）
- 13日 ホームページ打合会議開催
- 23日 黒菱山荘50周年記念式典開催
会場の対岳館には、丸山庄治氏、徹也氏初め多くの地元関係者、山荘委員会、同窓会役員等役30名が集い、50周年を祝うと共に、地元の皆さんへの感謝の意を表した
- 8月9日 P T A 新旧役員との懇親会開催（更なる協力体制を確認）
- 10日 教育支援基金会計監査実施（校長、顧問、会長、副会長が出席）
- 22日 役員会開催（総会、懇親会最終打合せ）
- 27日 総会、懇親会開催（会場を石神井倶楽部に変更）
議案はすべて満場一致で承認された
懇親会は約40名の同窓生が参加して、和やかに開催された
- 9月17日 母校文化祭に参加
18日も含め2日間黒菱山荘を中心にした白馬村を紹介
母校元教師の長島靖彦氏の高山植物写真展が好評を得る
文化祭終了後、作品は生物部に寄贈された
- 25日 同窓会の輪開催
（井草、大泉、武蔵丘、豊多摩、立川、国立、戸山、文京、小山台、新宿、第四商業、雪谷、神代、北園、石神井が参加）参加校が増え、情報交換が中心の会となった
- 10月1日 日比谷公会堂で開催された校歌祭に参加
同窓生約60名と吹奏学OB20名が参加、終了後懇親会開催
今回は、13期の同期会が日比谷で開催され、同期会終了後校歌祭に合流、元教師の小池生夫氏も参加され、楽しい舞台となった
- 11日 役員会開催（会費の納入の状況について、新会員の加入対策関係）
- 22日 卒業生に進呈する『同窓会のご案内』について打合会議開催

- 11月18日 役員会開催（『同窓会のご案内』作成、幹事会の再構築関係）
- 30日 母校にて、3年生に同窓会加入の説明会開催
副会長が約280名の3年生に同窓会の大切さをアピールし、加入をお願いした
- 12月13日 役員会開催（幹事会の再構築関係）
- 2012年2月7日 役員会開催（幹事会開催、今年度決算関係）
- 3月10日 母校卒業式に顧問、会長、副会長が列席
会長が挨拶、卒業祝いの紅白饅頭を卒業生に贈呈
- 24日 幹事会を開催（高1回～62回までの約30名が参加、幹事会の再構築を確認）

第2号議案 2011年度収支報告

2011年度(平成23年度) 決算報告書
(2011年4月1日～2012年度3月31日)

収入の部

	2011年度予算	2011年度実績	備 考
前期繰越金	12,058,757	12,058,757	
入 会 金	1,174,675	1,174,675	
年 会 費	3,000,000	3,449,605	
雑 収 入	100,000	107,594	
合 計	16,333,432	16,790,631	

支出の部

	2011年度予算	2011年度実績	備 考
総 会 費	150,000	297,379	「あおしま」で開催
本 部 費	550,000	743,069	
広 報 費	2,050,000	2,613,098	きずな作成費
発 送 費	1,800,000	1,717,004	きずな発送費
行 事 費	200,000	380,091	
山 荘 費	500,000	556,000	
新 会 員 費	110,000	112,855	榮太楼饅頭
予 備 費	50,000	50,420	
小 計	5,410,000	6,469,916	
次期繰越金	10,923,432	10,320,715	
合 計	16,333,432	16,790,631	

上記の通り、2011年度会計収支を決算して報告いたします。 会 計 上 野 俊 彦
上記会計収支決算を監査した結果、適正であることを認めます。2012年6月1日

会計監査 栗 山 隆
会計監査 広 瀬 由 貴

平成23年度 黒菱山荘会計報告
(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

【収入の部】	金額	備考
助成金	500,000	同窓会より助成金
PTA助成金	100,000	平成22,23年度2年分
宿泊費	274,000	宿泊費
受取利息	82	預金利息
計	874,082	
【支出の部】	金額	備考
交通費	60,000	乗車券、特急券、高速道路料、リフト代他
通信費	32,800	電話代、切手、はがき、郵送料
水道光熱費	161,875	水道代、プロパン代他
会議費	91,975	月例会議、総会懇親会、山寮協議会懇親会費
会費	5,000	山寮協議会年会費
備品費	48,510	什器備品費、鍋釜等
雑費	19,035	ゴミ処理費、お土産、お見舞い、消耗品
借地料	150,000	借地料
山荘管理費	50,000	山荘管理費(対岳館)
修繕準備金	254,887	黒菱山荘修繕準備金へ
計	874,082	

※修繕準備金残高 ¥1,070,322-

第3号議案 2012年度事業計画

今年度は、若手幹事会を中心に、同窓会活動を更に活発化し、より多くの同窓生が参加しやすい体制を整えます。会費の納入のほか寄付金の振込用紙を新しく作成し、更なるご協力をお願いいたします。

同窓会の輪の活動についても、呼称を変更して、活動の本質を確立します。

2012年4月7日 入学式に顧問、会長、副会長が列席

会長が挨拶

6月2日 体育祭視察、『きずな』取材

7月1日 『きずな』発行

8月25日 2012年度総会、懇親会開催

（会場は、母校にて開催。懇親会では、吹奏楽学部OBと現役生徒とのコラボ演奏会等楽しい企画を予定しています）

9月1～2日 教師の為の黒菱山荘ツアー開催

15日 母校文化祭参加

10月6日 校歌祭参加（日比谷公会堂にて）終了後懇親会開催

7日 同窓会の輪開催

2013年3月 母校卒業式に顧問、会長、役員列席

卒業生全員に記念の紅白饅頭を贈呈

日程は予定ですので、変更することがあります。

その他、役員会、幹事会、ホームページ、きずな発行関係の打合せ会議は随時開催します。

第4号議案 2012年度収支予算

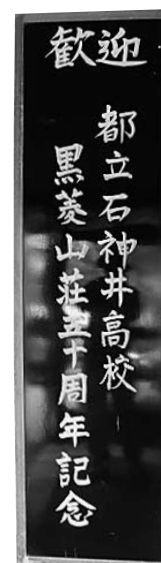
2012年度(平成24年度) 予算案

収入の部

	2012年度予算	備 考
前期繰越金	10,320,715	
入 会 金	1,124,418	3/19入金済み
年 会 費	4,500,000	寄付金を含む
雑 収 入	100,000	
合 計	16,045,133	

支出の部

	2012年度予算	備 考
総 会 費	150,000	母校開催に戻す
本 部 費	700,000	
広 報 費	2,200,000	
発 送 費	1,720,000	見積り受領済み
行 事 費	200,000	校歌祭、文化祭等
山 荘 費	550,000	
新 会 員 費	113,000	
予 備 費	50,000	
小 計	5,683,000	
次期繰越金	10,362,133	
合 計	16,045,133	



報告事項

教育支援基金運営状況および基金特別会計の収支について
2011年度教育支援基金事業報告

収入の部

前年度からの繰越金	3,556,840円
収入金合計	3,556,840円

支出の部

イギリス留学支援（3名）	60,000円
生物部、美術部	
夏季合宿に伴う宿泊費補助 （7,000×15名）	105,000円
ブリティッシュヒルズ講習料補助	100,000円
テント1張	232,470円
支払手数料	7,320円
支出の部合計	504,790円

収支残高 3,052,050円



上記教育支援基金会計収支を監査した結果、適正であることを認めます。

2012年6月21日 監査役 林 弘
監査役 佐藤 健

2012年3月31日現在の支援金明細

修学旅行現地の講師お礼	50,000円
校庭の防御ネット	420,000円
水泳部関東大会出場応援補助	50,000円
ブリティッシュヒルズ講習補助 （2008年度、2009年度、2011年度）	330,000円
地球のステージ公演補助	33,300円
サテライト講座講習補助	750,000円
イギリス留学支援	240,000円
部活動合宿の宿泊費補助	10,500円
テント1張	232,470円

2012年3月31日現在の残高3,052,050円に関しましては、学校側と協議の上母校発展のため、大切に用途を決めて参りますとともに、2013年度の広報誌『きずな』にてご報告申し上げます。ご支援を頂きました皆様に心よりお礼申し上げます。

同窓会ホームページの投稿欄にパスワードを設定。

昨年末より部外者による悪質な投稿が急増したため、同窓会ホームページの「クラブハウス」と「石神井サロン」にパスワードを設定しました。ご不便をおかけしますが、ご理解の程宜しくお願いいたします。パスワードは、同窓会ホームページの「会員の輪」→「クラブハウス」、「石神井サロン」のページからお問合せください。

石神井高校同窓会ホームページ「ウェブきずな」

<http://www.shakujii-club.gr.jp/>



ようこそ同窓会へ!!新会員64期生を迎えて!!

6月25日月曜日、石神井倶楽部にて今年3月に卒業した64期の代表の皆さんと座談会を開きました。同窓会出席者は、大久保会長、上野(会計)、橋本(H P 担当)、広瀬(現教師、会計監査)、勝見(副会長)の4名。

参加してくれた新会員は、ダンス部OBの3名。

以下自己紹介です。

鈴木さん：ダンス部部长を務め、卒業生を代表して答辞を読みました。

大学では、史学科で超域文化を勉強しています。

将来の夢は、ライター

幸崎さん：ダンス部で楽しい高校生活を過ごしました。

語学の専門学校で、英語と韓国語を学んでいます。

特に、韓国語に力を入れていて、韓国に3ヶ月留学する予定があります。

宗石さん：ダンス部で一生懸命練習し、楽しかったです。

将来、保育士になるべく大学で勉強中です。

石神井高校の卒業生であることを自慢したくなる、体育祭の話、いろいろなOB会が活動している話、各期同志が仲がよく長く付き合っている話、ダンス部での悔しかったこと、楽しかったこと、あの答辞誕生秘話などなど、相当な年齢差にもかかわらず（これが同窓会の良さなのですが…）、話は尽きることなく続きました。

最後にダンス部のOB会をつくろうということで、お開きとなりました。

これからも、毎回新しい会員をご紹介します。



同窓会役員と64期生との座談会
上段左から、上野、橋本、大久保会長、広瀬先生、勝見
下段左から、幸崎さん、鈴木さん、宗石さん

「振込め詐欺」と思われる電話が再び急増! ご注意ください!

過去の名簿などを悪用したと思われる振込め詐欺がすでに複数発生していますが、6月25日頃から卒業生のご家族に対する振込め詐欺と思われる電話が急増しております。

卒業生の実名で「携帯を変えた」といった電話の後「借金返済のため現金を振込んで」と連絡が来る手口や、警察や弁護士を名乗り「息子さんが会社に迷惑を掛けた」と偽り、現金、通帳、カードを詐取する手口。こうした電話があった場合は、必ず本人（元の電話）に確認すると同時に110番通報してください。

なお、卒業生のご家族の被害総額は既に1200万円を越えております。

卒業生代表の答辞を聞いて

勝見 鈴代(同窓会副会長 高20回)

「私は正直な所、卒業したくありません。今日私達のためにたくさんの方々がお集まりくださっている中、こう初めに伝えていいのかすごく悩みました。けれどこうした最後をしめくくる貴重な場だからこそ今、私が伝えなければならぬのは、高校三年生が感じる正直で偽りのない言葉なのではないでしょうか。だから私にしか言えないありのままの石神井高校での三年間を伝えようと思います。」

同窓会からの来賓として出席していた私は、卒業生代表の答辞がこう始まった時正直衝撃を受けました。実は別の衝撃がその前にあったのです。卒業生代表として壇上に上がった生徒の髪の色と服装が私たちの頃には想像もできないものだったからです。その出で立ちで何を話すのかと多少の不安と共に彼女が話し出すのを待っているところにいきなり発せられたのが冒頭の言葉でした。卒業したくない、ってどういうことなの?と思いながら思わず身を乗り出すと、

「春、桜。今思えば始まりもこの体育館でした。人見知りをする私は周りの人が怖くて、椅子に座ってじっと下を向いていました。すると『おはよう、よろしく!』と明るい笑顔がふってきたのを覚えて

います。私はその笑顔が眩しくて、嬉しくて、この学校がすぐに好きになりました。」

という言葉が続きました。その後、学年ごとの思い出、部活動での部長としての悩み、苦勞などが語られ、

「私はここで立派な大人にはなれませんでした。でもこの三年間で自分を知ることができました。まだまだ子供で周りの人に支えられている私。そんな私を隠さず、受け入れ、私はここから大人になっていきます。そしてお母さん、見ていますか。私が悩んだ時も辛い時もいつだってそばにいて、応援してくれたお母さんを誰より尊敬しています。私はお母さんみたいな大人になれるよう頑張ります。いつもありがとう。」

と言うくだりではもう涙を止めることができませんでした。紙面の都合で全文を掲載できませんでしたが「ウェブきずな」に全文が掲載されていますので是非お読みください。

こんな素晴らしい答辞が読める後輩を持つことができ本当に幸せです。

素敵な答辞をありがとう!

2012年度 母校教職員の人事異動

転出

お世話になった先生



転入

新しくいらした先生



職名・教科	氏名	転出先等
副校長	西塚 春義	上水高校(校長)
国語科	井口 衛	第四商業高校
数学科	扇原 誠	国立高校(非常勤)
数学科	勝木 衛	大泉高校付属中等学校
理科	神庭 郁	工芸高校
英語科	中園真由美	農芸高校
国語科	古屋 明子	富士高校付属中等学校
行政職	氏名	転出先等
企画室長	上野 政明	練馬工業高校
主事	大月 志津	飛鳥高校
主事	天竺桂健史	駒場高校

職名・教科	氏名	前任校等
副校長	栗原 爾	東村山西高校
英語科	大出 陽子	南平高校
非常勤	小澤 時男	練馬工業高校
理科	佐藤 功	板橋有徳高校
数学科	芹沢 哲	田無工業高校
数学科	田中 裕泰	清瀬高校
地歴科	田中 秀樹	小平南高校
国語科	田山ゆかり	神津高校
国語科	南 千加子	東久留米総合高校
保健体育科	横山 創	白鷗高校
行政職	氏名	前任校等
企画室長	中村 恭子	大江戸高校
事務	鈴木 将之	新規採用

母校周辺を散策すれば

佐藤 健（高3回）

—— 母校周辺の変貌ぶりには目を見張るものがあります。

そんな中、60年以上も前の回顧談です。古い奴だと笑わないでください。——

某日、春風に誘われて我が家から2キロの距離にある母校まで歩いてみた。西武池袋線保谷駅を出発点として母校へ向かうと、六十数年前の記憶がよみがえって来たのである。

今は道路も整備され住宅や商店が立ち並んでいるが、敗戦直後の昭和二十年代の前半は大部分が畑で、木々に囲まれた農家が点在するという風景だった。雨が降れば道は泥沼と化し、歩くのに難渋した。

キャサリン台風という大型の台風が来たとき、母校・保谷駅間の一部道路が水没してしまった。保谷駅から徒歩通学の友人たちは、ズボンをひざ上までたくし上げ、履物を手にして泥水の中を歩いた。私はこれがうらやましく、ぜひ自分も水の中を歩いてみたいと思った。

そこで下校のとき、保谷駅経由で帰ることとして、泥んこの中の歩行を決行したのである。やってみると意外に楽でない。足裏がぬるぬるし何度か転びそうになった。駅に着いた時には上着まで泥だらけで、母親に叱られたことを思い出した。

武蔵関駅への道も舗装されていないから、冬場になると霜柱が溶けては凍り、溶けては凍りを繰り返す。ドロドロの道を下駄で歩くと（注：当時の履物の主流は高足駄である）、下駄の歯と歯の間に泥が詰まって歩きにくい。そこで、道路にスレートの破片を散布する工事が実施され生徒が動員された。

スレートとは屋根に使う石材の瓦である。空襲で木造の体育館が全焼し、割れたスレートの山が残っていた。これを利用したのである。石木先生が張り切って工事監督をされていたが、多くの先生はニヤニヤと傍観していた。生徒のやる仕事だから効果はなかったように思われる。

校門を出て武蔵関駅へ向かうと道は左右に別れる。右へ行けば西武電車の踏切まで続く一直線の下り坂で、草木の生い茂る狭い道だった。ある日のこと、吉祥寺から徒歩通学していたT君が自転車に乗って来た。自転車通学の戦後復活第1号で

ある。早速、悪童どもが良からぬことを企む。「お前、坂の上からブレーキをかけずに踏切を渡れるか、できないだろう。弱虫！」とけしかけた。「何を！」というわけで、彼はこれを実行した。電車は三十分に一本しか来ないから、T君が無事だったのは言うまでもない。

その別れ道の角に、ある日突然パン屋が出現した。食糧は配給の時代だから、パンも自由には買えない。そんな時、パン屋が開店して切符なしでコッペパンが買えるという。「あの店でパンが買えるぞ」。ニュースは一瞬の間に校内に知れ渡った。嬉しかったね。パンを一個買って、みんなで分け合い、食べながら駅へ向かったりした。今も買い食いの伝統は残っていると思われる。駅前のコンビニには高校生らしき若者が群がっていた。

別れ道を左へ行けば、芙蓉女学校の下を通って駅へ至る。今は東京女子学院と称し、中高一貫教育の進学名門校だという。皆さん、同校のHPをご覧ください。意欲溢れる編集内容だから「成程そうだろうな」と納得できるだろう。偏差値で母校は負けているというが、真偽のほどは知らない。

この近くに本立寺というお寺があり、12月になると御祭礼の市が立った。「関のぼろ市」として有名だが、当時は焼きそば、綿あめ、ミカンなどを売っていた程度だ。インチキな賭け将棋屋があり、腕自慢のM君がこれにひっかかった。あと一手で詰むという簡単な詰将棋である。彼は自信をもって王手をかけた。ところが、盤面の隅に角が置いてあり、これが利いているから詰まないのである。M君は負けて賭け金5円が払えず、腕時計を取られたという事件である。今なら教育委員会が登場する騒ぎになるところだ。

もうすぐ傘寿という老体が、よみがえる思い出を懐かしみながら、おぼつかない足取りでヨロヨロと歩いていると、やがて見違えるように立派な武蔵関駅に到着し、私の母校周辺の散策は終わったのである。

シャープス&フラッツで活躍の鈴木孝二さん

日本を代表するビックバンド、原信夫とシャープス&フラッツで長年、サクソとクラリネットを演奏してきた鈴木孝二さんは石神井の9回生。

石神井時代は1年の時、軟式テニス部に短期間いたくらいで、部活はあまりしていません。というより当時は音楽の魅力に取りつかれていました。先生で記憶にあるのはアパッチという綽名の金塚文雄という体育の先生と音楽の渡辺先生です。

とくに渡辺先生は石神井高校の校歌を作曲したので記憶が鮮明です。甲子園の校歌斉唱を聴いても軍歌調が多い中で、石神井の校歌は勇壮かつ荘厳な混声合唱曲という特色ある曲です。これはクラシックの作曲家でもあった渡辺先生が作曲されたからです。

その当時の私は音楽ならなんでもいいという感じで、タンゴ、シャンソン、ウェスタン、ジャズ、クラシック、ハワイアンという具合に何でも夢中になって聴いていました。

映画ではジェームス・ディーンの「理由なき反抗」「エデンの東」が大ヒットした頃で、私もご多分に漏れず、ジェームス・ディーンの魅力にすっかりとりつかれていました。

当時、新宿の「ともしび」「カチューシャ」などなど歌声喫茶店が大はやりでしたが、仲の良かった川口仁常君、竹越通彦君の3人は特にジャズが好きで3人揃ってジャズに聞き惚れていたものです。

私の場合、兄のレコードコレクションにジャズが多かったこともジャズに傾倒した大きな原因でしょう。

中でもキッド・オーリーのレコードに入っていたバニー・ビガードのクラリネットには高校生ながら魅せられたものです。そして、最後の決め手になったのが、「ベニー・グッドマン物語」です。その前に「グレン・ミラー物語」も観ましたが、ベニーのクラリネットが私を魅了し、これ以後、すっかりクラリネットに傾倒してしまいました。

とにかく、その頃はジャズ映画全盛で、ルイ・アームストロング主演の「ニューオーリンズ」も熱狂して観たものです。そのうち、川口君がトランペットを吹き出し、竹越君がギターを爪弾くようになり、私も兄貴が買ってきたアルバート式の前風なクラリネットを吹くようになり、石神井の卒業式の後の謝恩会で、「セントルイスブルース」を演奏した記憶があります。

結局、音楽好きが講じて国立音楽大学器楽科に進学し、クラリネットの巨匠・大橋幸夫先生に師事し、クラリネットを本格的に勉強しました。大橋先生は東京



芸大、国立音大で講師を務め、N響の首席クラリネット奏者として永年、N響のクラリネットを支えた演奏家で、日本のクラリネット教育の基本を作った先生です。素晴らしい先生に出会え、鍛えられた充実した大学時代でした。

卒業後は、沢田駿吾コンボ、森剛康とゲイスターズなどを経て、1967年、原信夫とシャープス&フラッツに入団しました。

このバンドではバンドマスターの原さんから、演奏家の前に人間としてのマナーを鍛えられたものでした。当時流行っていた長髪はもちろん、遅刻は御法度、ジーンズも駄目という具合で社会人としてのマナーのイロハから指導されました。

世間的にはいい加減な人間が多いと思われるミュージシャンですが、原さんのお蔭と今でもそのことは感謝しています。

一時、シャープ&フラッツを退団し、宮間利之とニューハードに在籍しましたが、78年にシャープス&フラッツに復帰し、2009年のラストコンサートまでサクソとクラリネットを演奏していました。

ニューハードもシャープス&フラッツも日本を代表するビックバンドですが、そのシャープス&フラッツの黄金時代と言われる時代に在籍していたことは本当に幸せなことでした。

今は自分のバンドの他、外山喜雄とデキシーセイインツのメンバーとして演奏しています。石神井関連では、青山の「あおしま」では同期の川口君などと何度かコンサートしました。同期といえば、N響の首席フルート奏者の小出信也君も石神井9回生です。結構、9回生は音楽畑が多いようです。後輩ですが、ジャズドラムの梅田英伸君も石神井の25回生です。

永年、演奏家としてやってきて一番良かったと思うことは、「お金を払ってでもいいから伴奏したい」と思っている世界の一流歌手の伴奏をお金を貰って演奏してきたことでしょうか。とにかくフランク・シナトラ以外、大抵の歌手の伴奏はやってきましたから。

ざっとあげると、サミー・デイビス・ジュニア、トニー・ベネット、パット・ブーン、ダイアナ・ロス、アンディ・ウィリアムズ、ナンシー・ウィルソン、ヘンリー・マッシーニ、ジュリー・アンドリュース、ペギー・リー、ディオニス・ワーウィック、ペリー・コモなどなどなど大物ざらりです。

その他、#&bでニューポートジャズフェスティバル、モンレージャズフェスティバル、ニューハードでモンタレイジャズフェスティバル、#&bでソ連公演、ニューハードで南米公演などに参加してきました。

一昨年、石神井創立70周年記念の懇親会でも演奏しましたが、機会があればまた母校で演奏したいものです。

(13回生 Y.N)

高校9回生のボランティア演奏家 川口常仁さん

ボーカルと Hammond オルガン演奏で清瀬市やその周辺の老人ホームや病院などでのボランティア活動や、ライブハウスでの演奏活動をしているグランパ・ジョージこと川口常仁さんは石神井9回生。

石神井時代の思い出は何と言っても寺島ガンちゃんとの一件です。肩を脱臼して腕が痛いのにガンちゃんに例の手押車を無理やり遣らされたので、睨み付けたら、ガンちゃんは「文句あるか」でした。この時はあまり痛いので、勝手に教室に戻ってしまったんです。

こんなことがあった上、間が悪いことに中学時代に講道館に通っていたのをガンちゃんに言わないで、柔道部の猛者と乱取りして、ガンちゃんの目の前で得意の「うつり腰」で彼を投げ飛ばしてしまったんです。

「あの野郎、柔道やっていたこと隠してやがったな」とガンちゃんが怒ったのを他の体育の先生が気にして「お前、謝ってこい」と言われ、謝りに行った記憶があります。

その頃の私は変声期の後に突如、三オクターブ以上の声が出るようになる異変があり、歌うことが好きになり、ジャズ、ウェスタン、ハワンアンなど当時流行していた曲をギター、ウクレレなどで歌っていたものです。

そんなある日、ビックス・バイダベックというコルネット奏者の「情熱の協奏曲」という伝記映画を観て、トランペットの虜になりました。

同じく音楽好きの同級の鈴木孝二、竹越通彦の3人で、「三羽ガラス」と称してジャズやウェスタン音楽に聞き惚れ、演奏にも興味を感じて、私はトランペット、鈴木はクラリネット、竹越はギターという具合にトリオでバンド演奏の真似事をしていました。鈴木はその後、音楽学校に行き、プロで活躍していますし、今でも時々、一緒に演奏してもらっています。

ただ、私は子どもの頃から理科少年というか、発明好きの少年で工作や機械いじりが大好きで色々な物を作っていました。高校2年の時には20cmの反射望遠鏡を自分で作っていたし、独立車軸の全方向車ゴカートを作ったこともありました。

音楽好きだったけど、理系が得意だったので進学したのは芝浦工大機械工学科でした。

ところが、なにせ三オクターブ以上の声が出るわけですから、東芝レコードから引っ張られ、アメリカのキャピタルレコードからデビューさせるなんて話が持ち上がっていました。

当時のことですから、アメリカでデビューなんてそう簡単にできるわけもなく、待っている間に横須賀の米軍キャンプでカントリー歌手を募集している話があって、オーディションを受けて



キャンプでカントリーを歌い始めました。

その頃の米軍キャンプは各界の大物が結構出入りしていて、テキサスの大牧場主の将校が私のファンになり、テキサスでカントリー歌手にならないかという話が持ち上がったりしました。

中でも出色だったのは、当時、Mr.Bで通じる全米一のシンガーのビリー・エクスタインが慰問に来ていて、私の歌を聴いて「是非、アメリカに来い」って言ってくれたことです。

この時、茶目っ気を出して、彼の前で彼のヒット曲を歌ったんです。その時、そのビリーが「俺の前で俺の曲を二度と歌うな」って凄味のある声で言ったので不味いことになったと思いましたが、実はこれは彼流の最高のほめ言葉だってことが後で分かりました。

しかし、いずれの話も家庭の事情があって実現せず、結局、自分のバンドを作って赤坂のホテル、ナイトクラブなどで演奏活動をするようになっていました。初めはトランペットとボーカルでしたが、後にジミー・スミスのオルガンを聴いてから、ハモンドオルガンに転向しました。

ハモンドオルガンは、別格の音が出て、ジャズ演奏にはピッタリの楽器なんです。

私のバンドは人気もあって長期専属契約もあり、結構、評判が良かったのですが、38歳の時に事情があって音楽活動を抛棄し、本来の機械屋に戻って自動車業を20年ほどやっていました。

その私が演奏活動をするようになったのは、妻が通っている病院で聴いた土曜コンサートが切っ掛けです。聴いているのは皆、お年寄りばかりで、こういう方々に聴いてもらう音楽だったら30年以上ブランクのある私にも出来ると思って、昔の仲間たちとまたまた始めたわけなんです。

ジャンルは、スウィングスタイルのスタンダードジャズ、カントリー、ゴスペル、ハワイアンなど幅広いレパートリーを聴いてもらっています。

そして人々の心に安らぎと人を思いやる心をもってもらい、世界中から闘争をなくして戦災孤児達の救済基金活動の支援としてチャリティコンサートなども始めています。そんな私の気持ちを込めて「ミラ シャローム マシュマ シャローム」という曲を作詩作曲しました。この歌を宗教、人種に関係なく世界中で歌ってもらいたいと思っています。

（シャロームは、「平安」という意味で聖書に出てくる世界で一番古い言葉です）

シャローム シャローム シャロームという言葉はあなたの平和を願う言葉

シャローム シャローム シャロームという言葉は互いの平和を願う言葉

人は皆 相手の立場で思いあって

助け合っていこう

シャローム シャローム シャロームという言葉は世界の平和を祈る言葉

シャローム！ 皆様の平安を祈ります。

(13回生 Y.N)

リコーダーとアイリッシュ・ウィスルで高齢者施設訪問 藤井 旭(高15回)



小金井市内と中野区内で、月に数回、高齢者施設を訪問し、縦笛(リコーダーとアイリッシュ・ウィスル)を演奏する。街の音楽教室で習った程度だが、なんとか「実用化」している。

こっちだってはや「高齢者」なのだが、さして変わらぬお年寄りに懐かしいメロディーを聴いてもらう。曲は唱歌、抒情歌、日本や世界の名曲、アイリッシュメロディー、クラシックバラード、オールディーズ、昭和歌謡曲…。そういったところである。

年寄り見習いが本物の年寄り達を訪ねて一緒に懐かしい気分に入る。どこか「老老介護」の趣が漂うのは仕方ない。

朗読のボランティアさんと一緒にいる時もあるが、伴奏メディアを鳴らして一人で笛を吹くことが多い。いつだったか、「バッハのシチリアーナをやります」と伴奏をスタートさせたところ、「津軽海峡・冬景色」のイントロが始まり慌てた。再生機器の操作を間違えてしまったのだ。だが、そのくらいのことでは驚くお年寄りはいない。というか、聴いていないのかも知れない。

お年寄りは概して反応が見えにくい。多かれ少なかれ認知の機能も衰えてくる。けれど決して音楽を聴いていないのではないと、後で気づいた。無表情で眠ったようにしていても、指先が拍子を取るように微かに動いていたりする。終わって帰り際、むっつりと近づいて来て「とっても良かった」と握手を求めのおばあちゃんもいた。

同じ音楽でも、「コンサート」や「ライブハウス」などでの音楽とは別世界のものだろう。これはお年寄りの生活現場での「実用音楽」だ。

木造校舎、砂嵐、名物先生方、クラブ活動…。石神井高校を卒業してからほぼ半世紀。サラリーマン時代にはあまり足を踏み入れることのなかった「生活の最現場」の地ベタで、今笛を吹いている。



東京オリンピック

上野 俊彦(高17回)

東京でオリンピックが開催された昭和39年、ボクは高校3年生だった。10月10日の開会式から2週間は日本中がお祭り騒ぎだったが高校3年生のボくらにとってはそれどころではなく、受験勉強の追い込みに入る時期であった。

ところが都立高校には東京都の集客政策の一環としてオリンピック競技の観戦切符が割り当てられたのである。当時はまだオリンピックが商業化されていない時代であるから開催都市としては観客のいないガラガラの会場などは無くしたい一心で切符をいかに捌くかが大問題だったのだろう。かくして石神井高校にも切符が割り当てられた。そして、なぜか知らぬがボクの手元に回ってきたのは「重量挙げ」という見たこともなければ、聞いたこともない競技の切符だった。勝ち目のあると言われていた「東洋の魔女」の女子バレーボールならばいざしらず、「重量挙げ」などという謎の競技の切符を渡されたボク達は不満だった。不満が高じた結果、フケた。試合会場に行かずに中野の喫茶店に行ったのだ。喫茶店でクラシック音楽を聴きながら受験勉強に時間を費やした。

さて、今となっては誰でもお分かりのようにその日、重量挙げで優勝したのが三宅義信である。今だからこそあの「重量挙げ」、いや、今では「ウエイト・リフティング」と呼ばれる競技のスポーツ性としての面白さは理解されるが、あの当時は誰もあの面白さを知らなかった。せいぜい田舎の「米俵担ぎ上げ大会」と同類くらいにしか思っていなかったのだ。そして、翌日から三宅義信は英雄になり、ボクらは焦る身になった。何と言ったってボクらは見に行ったことになっているからだ。そこに追い打ちをかけるように後日、試合観戦記を書け、という無茶な難題を出されたのだ。あえてその先生の名前は伏せるが、多分、ボク達がサボって行っていないことに勘付いていたんだらう。陰険である。ボクは必死で、あることないこと書き連ねた。

「その瞬間三宅義信の二の腕の筋肉が今にもはち切れんばかりに盛り上がり、胴に巻かれた皮ベルトが千切れんばかりに軋み声を上げた時、グイ、とバーベルは頭上高く差し上げられたのである。三宅はふらつく足を必死で踏ん張りこらえて、ついに日本に重量挙げ競技の金メダルをもたらした。そして私はその瞬間を目の当たりにするという幸運に恵まれた！」

当時としては、あらん限りの想像力を膨らまし、文章力を駆使して書いた。

ボクが今、物書きとして生きようなどと考えているのは、あの時のアノ先生のお蔭かもしれない。

〈仙台で被災した鈴木良一さん(高13回)に関する新聞記事を紹介します〉

2012年3月3日付 「リビング仙台」の記事から

県内最大の仮設住宅のルールを手探りで整備 次のステップにもみんなで向かうカタチ作りを

「自分の人生の中で、この半年は2～3年分以上の濃密な日々でした」と話す、あすと長町仮設住宅運営委員会・会長の鈴木良一さん。県内最大のこの仮設住宅には、現在233戸に約450人が暮らします。

「仮設住宅は当初、10家族で一緒に申し込みという規制がありました。避難所で一緒だった皆さんと、宮城県内で最初にできたこの仮設住宅の第一次募集に応募し、5月に入居しました」。鈴木さんが第一次募集に申し込んだきっかけは、ペットOKだったから。

次第に入居者が増えてくると、さまざまなトラブルも発生しました。「生活ルールなどの指導もない中、無法地帯ではまずいと、有志10人の呼びかけで“あすと長町仮設住宅運営委員会”が昨年8月からスタートしたのです」。

イチからのスタートで、困難の連続だったと鈴木さん。役員、特に会長の鈴木さんのところに昼夜問わずに陳情苦情が持ち込まれたそう。「ごみ出しや駐車の仕事などが改善されないときには、その都度張り紙をしました。時には心ない言葉を投げつけられることもありましたね」。

行政に対しても、積極的に要望を提出。「黙っては何も進みません。例えば仮設住宅の寒さ除けの風除室の設置。安全のために緊急要望書として、民間のガードマンの配置を挙げたこともあります」。そして、コミュニティづくりのために、「なんちゃってフランス語クラブ」や「農園クラブ」など10のクラブも設け、いまは多くの人に関わり、活動しています。

現在は6つのブロックに世話役として複数のブロック長を配置し、運営委員会をサポート。「約87%の175人が運営委員会に賛同しています。ようやくここまで来たなという感じですね。運営委員会は3月11日(日)の総会で会員に認証されれば、自治会に移行、私は役を下りる予定です」。

そして住民の次のステップは「自立」と鈴木さん。「ここはあくまでも仮の住まいだから、大変だけど出ていくことを考えないと。ある程度落ち着いてくると、その意識が薄くなります。ですから自治会で自立に向けた取り組みを住民とともにするべきだと考えています」。



あすと長町仮設住宅運営委員会
会長の鈴木良一さん(右)

副会長(渉外・IT担当、HP管理)の
飯塚正広さん(左)

ホームページでは・同仮設住宅の日々の動きなどを紹介。先日この仮設住宅から飯塚さんのお嬢さんが嫁いだ様子も、ブログで紹介されました。

<http://asutonagamachi.web.fc2.com/>

2012年3月6日付 「住宅新報」「ひと」欄 その日その日に感謝

3月11日に住民総会を開催する「あすと長町仮設住宅運営委員会」会長 鈴木良一さん

「大変なことはあったが、落ち込む暇もないくらい忙しかった3月11日の住民総会が一つの区切り。正直、ホッとしている」

自身も家もろともすべての財産を震災で失った。想像を超える喪失感はあるが、仙台市内随一の「マンモス仮設住宅」をまとめようとする意志は、過去を振り返らず前向きに生きていくパワーの源となった。

「気を紛らわすこともできたかな(笑)」

居住ルールらしいものがない中、一つの敷地内に建設された233世帯の仮設住宅。お互い見知った顔がほとんどなく、心のどこかにある「少しの間だけの仮の住まい」という意識。独りよがりな行動も許されそうな雰囲気、「待った」をかけるべく運営委員会を8月下旬に立上げた。

これまで自治会運営の経験はなかったが、「やるからには本気で」の意気込みが、徐々に伝わり、多くの居住者から賛同を得ることができた。

会則制定をはじめ、会の組織化を図り、居住者間の交流会も適宜開催。様々な要望や住宅地内の問題点をスムーズに伝えようと、管轄する区の幹部職員らと月に一回意見交換する場もできた。

運営委員会の会費はゼロ。会長をはじめとする役員は、「当然、手弁当。皆さん本当によくやってくれる」。活動の多くは、様々な方面からの支援で成り立っている状況だ。「新年度からは、自立を目指した会の在り方を考えても良い。また、居住者がここをスムーズに出るためのバックアップもすべき。次の会長、役員と共に、更に住みよい仮設住宅にしていく」と元気を見せる。

今年で古希。「今までは物欲もあり、高価なものもたくさんそろえていた(笑)。でも、もういらない。その日、その日を過ごせることに感謝するのが、3月11日以降の生き方」。笑って、楽しく、安心して生活できる場の確保。願うべきは、そのことだけだ。

こどもはどうやって英語を習得するのか

慶應義塾大学・明海大学名誉教授 小池 生夫
(本校元教員)

私は昭和30年4月から36年3月31日まで石神井高等学校で英語を教えた。青年教師で、張り切って受験勉強を指導したり、放課後はバスケットボール部の指導をした。

運動会は名物で、生徒が主になって計画し、実行する。私は着任したばかりの秋に100mを3年生といっしょに走った。なにしろ高校3年の時12秒5であったので少々自信があった。ところが結果はビリであった。翌年2年生と走った。その結果も同じであった。その翌年は一年生と走ったがこれまた最後尾であった。

クラス担任をしていた時期もある。生徒たちを小さな間借りのわが家に招いたりした。家内が御馳走をつくってくれた。私が教えた、いま70歳前後の卒業生たちに元気でいてもらいたいと祈る。

私は40歳で米国Georgetown大学大学院に入り、Ph.D.(言語学)を習得後に英語教育や応用言語学の国内、国際学会の会長や副会長、世界大会組織委員会委員長などを務めた。昨春天皇陛下から瑞宝中綬章を賜った。お世話になった方々のお蔭と感謝している。

博士論文のテーマは、「日本人のこどもがアメリカで英語をどのようにして習得するのか」であった。今日盛んな第2言語習得研究の嚆矢となった一書である。これは5歳、7歳、10歳のこどもの英語習得の過程を分析したもので、いくつもの新発見がある。たとえば、こどもは、一般的傾向として英語イントネーション、リズムを個々の発音より先に習得する。

ここで「習得」とは「無意識に正しく使えるようになる」という意味で用いる。年齢が低い子は個々の発音も容易に正しく発音できるようになる。苦勞するのは高校生以上である。

基本文の習得は個々の語彙の語尾のsとかedより先行する。なお忘れる順序は単語のほうが先である。3人称単数の-s、複数の-sなどの習得については母語が異なってもほぼ同じ習得順序性がヒトの脳に存在する。例えば、一般に形態素の習得順序は-ingがもっとも早く習得する。「進行する」とい

う意味と形が変化しないからであろう。冠詞のtheとaでは、theを先に習得する。「その」と指示するものが具体的に目に見えるからであろう。

文では形が変わらない表現を先に習得する。たとえば、Hi!, Good morning. Bye-byeなどがそうである。それに対して、文を構成する要素に単語を入れ替えて用いる文の習得は遅れる。そのなかでI'm gonna to school. のschoolの代わりにthe station, the bookshop等が入ることができるような文は比較的早い。こどもは理屈で習得するのではなく、コミュニケーションをしながら、想像力を使って文の理屈を無意識に習得するのである。

こどもにははやく英語を学ばせたほうがよい。それもこどもに適した方法、たとえば遊びを通して興味をもたせる、また英語の表現を声を出して真似させたり、発話させる方法がよい。

こどもに英語をやらせると日本語がだめになるという意見がある。これは一般には間違いである。むしろこどもには適性能力がある。積極的におおらかに英語環境をつくってやるのが将来に備えることになる。

ようやく小学校5, 6年から週1時間の英語の授業が必修ではじまった。できるだけ生の英語を聞かせて楽しませるのがよい。多くの国のように小学校低学年から週2, 3時間は英語を学ばせるようにはやく切り替えるべきである。さしあたり、自衛手段を親がとってやる必要がある。すでに英語は国際共通語になっている。

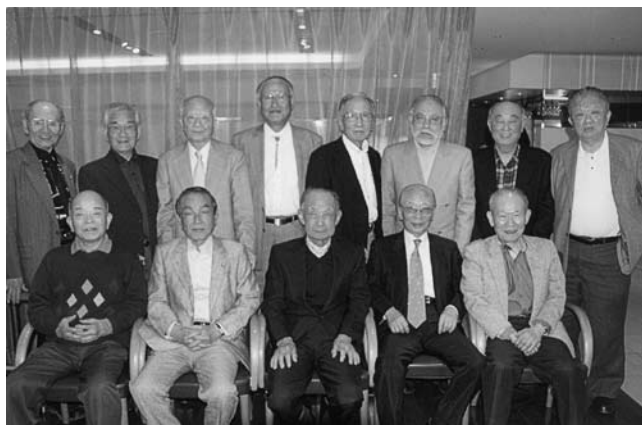


第3回卒業生(昭和26年)同期会のお知らせ

昭和26年卒業の我々は傘寿を迎えます。前から、傘寿同期会を考えていたのですが、私(佐藤)の個人的事情のため延び延びになっていました。そんな矢先、高原洋君からお誘いがあり「有志による小規模な同期会」に参加することができました。席上、この秋に同期会を行いたいと提案し、出席者(写真参照)全員の賛同を得たところであります。

日時、場所等が決まり次第、できるだけ多数の方に連絡しますので、ご期待ください。ちなみに、4月24日に新宿中村屋で行われた「小規模な同期会」の参加者は、前列左から佐藤、竹沢、新谷、池内、剣持、後列左から那須、秋元(旧姓畑井)、小池、奥山、高橋、高原、木村、房木の諸君です。紅顔美少年の六十数年後の姿、分かるかな？

(佐藤 健)



同期会 & 校歌祭 東京校歌祭 に、13回生大挙して出演

2011年10月1日、卒業50周年を迎えた「13回生」は記念の同期会に花を添えるべく、同期会を東京校歌祭を開催する日比谷公会堂近くの「松本楼」にて開催し、母校の校歌斉唱の時間に合わせて閉会し、記念写真撮影後に、日比谷公会堂に駆けつけ、40名以上の同期生が大舞台上で校歌を熱唱しました。

同期会に出席いただいた元母校英語教師の小池育夫先生も壇上で熱唱するというパフォーマンスもあり、近年にない盛り上がりでした。

恒例の「青山 石神井倶楽部(レストランあおしま内)」での打ち上げ懇親会にも13回生が18名参加し、大いに飲みかつ食い、お喋りに興じて数時間を至福のうちに過ごしました。

校歌祭に日時を合わせ、同期会、クラス会、部活のOB会など開催して、多くの卒業生が参加すれば、石神井はブラスバンド演奏もあるだけに他校を圧倒することでしょう。来年の第20回東京校歌祭で是非、様々な形式での参加を増やしていきたいものです。(13回生 Y.N)



東京校歌祭 に参加しましょう!!

今年の校歌祭は、第20回記念すべき校歌祭です。

日時：2012年10月6日土曜日午後1時開演

会場：日比谷公会堂

集合：午後1時正面階段上がった受付(同窓会の旗が目印)

石神井の出演時刻は、15時頃の予定です。

石吹OB、現役生徒の伴奏と共に、旧十四中校歌、現在の校歌を熱唱しましょう！

同期の仲間、ご家族を誘って参加してください。

終了後、懇親会を開催します。

懇親会会場は、石神井倶楽部(レストランあおしま内青山ビルB1 TEL03-3403-3461)

地下鉄青山一丁目下車0番出口から青山ビルB1に入ってすぐのお店です。

昨年は約60名が参加して、楽しいひと時を過ごしました。

『同窓会の輪』の状況

都立高校同窓会の役員が集まり、それぞれの同窓会の課題に対し共通に解決できるものがあれば協力して対応するという趣旨の下に、「同窓会の輪」という名の集まりが石神井高校を中心に近隣の大泉高校、井草高校などが集まり3年ほど前に発足しました。その後、さらに都内全域より参加高校を募りながらこれまで6回の打ち合わせが開催されました。現在は豊多摩高校の同窓会会長に、本会の会長をお願いしています。これまで16校の参加を得て、共通の課題について話し合いを行い、更に広く参加高校を募り、共通の課題、東京都への建言などを取りまとめていくこととしています。皆様からもこの集まりで議論したい課題がありましたら、ご提案ください。HPにて受け付けるようにしたいと考えております。

会長 大久保 利一

石神井・大泉バスケットボール部 合同OB会&交流戦報告

バスケットボール部OB・OG会副会長(総務担当) 30回卒 加藤純子(石水)

昨年夏、石神井・大泉双方のOB会幹事が中心となり、現役顧問の先生方にご協力を得て実施された、「第1回石神井高校・大泉高校 合同OB会/交流戦」には、8/30(火)の平日にもかかわらず多くのご参加を頂きました。

当日は、OB;32名(ゲーム参加25)、OG;47名(ゲーム参加33名)+お子様・ご家族が参加。大泉OB・OG、両校現役80名弱・保護者の皆様、を加えると、超200名が代々木第二体育館に集まった事になり、現役女子→現役男子→若手OB・OG→超or中堅OB・OGのゲームを実施。大盛況のうちにお開きとなりました。

卒業以来の再会もあり、スタンド席の会話も弾んでいました。超OBチームは(岩下・奥田、山下、久保内、細田)over60中心のスタートメンバーから。OGは50代・40代・30代・20代・10代と各世代に渡って集まりました。

参加者の多くの方から、第2回の開催要望のお声を頂戴し、今年も下記の日程で開催を決定いたしました。皆様奮ってご参加下さい!

記

第2回石神井・大泉バスケットボール部 合同OB会&交流戦

日時;2012年08月24日(金)

13時~現役女子→男子 16時~20時45分OB・OG戦

21時~24時 二次会「M-SPO カフェダイニング」徒歩10分 80名で予約済み!

詳細・参加連絡・問合せは 同窓会HPまたは 加藤 shakujibasket@yahoo.co.jp まで

※当日参加も可!



8回生の「牛歩会」と「エイト会」報告

鬼澤 英雄（高8回）

去年の「きずな」60号には8回生の記事が多かったのにビックリ。「自力で檜原村の中にレトロ郵便局移設」の話は面白かった。そのうち機会をみて孫でも連れて訪ねたいものだ、と思いながらチャンスが無かった。ゴルフはきちんとこなすのに孫へのサービスとなるとイマイチで家族の信頼が無い。今年こそは失地回復を果たしたいものだ。

この1年、同窓会もビックな行事が多かった。とくに黒菱山荘50周年の集いは楽しく茨城から3人連れて長距離を飛ばした。あいにく山荘までの林道は崖崩れで不通だったけど、総合資料館（白馬村）に黒崎峻先生愛蔵の「黒崎文庫」を訪ね、懇親会では持参の「露筑波」3本がたちまちカラになって、奥様の昭子夫人もかなりいける口とお見受けし、またの飲む機会が楽しみである。

恒例の8回生ゴルフコンペ「牛歩の会」も相変わらず元気者が集い、去年は東日本大震災の混乱と重なって、自重したり豪雨で中止があったりして、54回の1回だけ。今年は順調に回復し、第55回を4月に岡部チサンにて開催され、23人の参加があって横内稔君が優勝。実は震災前後のコンペでは私が連続優勝していて、内心3匹目のドジョウを狙っていた。しかし、当日は欲張りの大叩きであえなくチョン。まぐれラッキーはそうは続かないものだ。

秋の定例懇親会は昨秋10月27日、西新宿の「スターホテル東京」にて開催し、51名が参加した。歳を重ねるほどにだんだん参加者も増え、何度も繰り返されている思い出話に花が咲いた。この所、毎年開催で嬉しいものだ。恩師先生はなかなかお呼びする事は出来ないが、せめて消息だけでも聞かせてもらい長寿を祈っている。

二次会は同所で開き、名残惜しき面々は三次会を同窓会事務局、青山のレストラン「あおしま」に乗り込んで最後にパワー全開。

毎年、日比谷公会堂の舞台上で旧制校の校歌祭があるが、去年は母校が大変な出演者数で驚いた。聞いてみると、13回生が公園内の「松本楼」で同期会を開催し、母校の出演時間に合わせて散会し、ドッと公会堂のステージに登壇したという。見事な作戦で各期も参考にされてはいかががでしょう。



事務局便り

会費納入と寄付金のお願い

会費は、年2,000円です。『何年も払うのを忘れてるが、遡ってはらうのですか?』とのご質問がありますが、遡る必要はありません。もちろん、二年分、三年分を・・・は喜んでお受けします。

また、今年度から、寄付金も納入していただけるよう、振込用紙を、会費用と寄付金用に2枚同封しています。会員の皆様のご協力をよろしくお願いたします。

定期総会、懇親会

昨年は、会場を学校から石神井倶楽部に移しましたが、やはり『原点は母校』の声が多く寄せられ例年通り、母校に戻しました。

会員情報、住所変更、同窓会への問い合わせ先

東京都立石神井高校同窓会事務局

〒164-0002

中野区上高田1-14-7（石神井倶楽部）

Tel03-3319-1121、Fax03-3319-1124

ウェブきずな <http://www.shakujii-ciub.gr.jp>

同窓会活動参加者募集

年齢やジャンルを超えた出会いがあります。

現役で忙しい方も出来ることがあります。

特に、きずなの編集に拘わって下さる方大歓迎します。是非、ご協力をお願いします。

上記、問い合わせ先までご連絡ください。

同窓会顧問の高橋 勇氏（中2回）ご逝去

同窓会顧問の高橋 勇氏（中2回）が、去る1月15日逝去されましたのでお知らせいたします。

高橋顧問は、平成5年から14年まで会長を務められ、多くの改革を実行し、現在の同窓会の基礎を築かれました。

通夜には会長、副会長が参列いたしました。心よりご冥福をお祈りいたします。 合掌。

「シカゴの蛤うどん」

Tommy (高17回)

「ハマグリウドーン！」私の顔を見るなりフロアマネジャーのジアーニはいつもこう叫んだ。浮世絵の蒐集で有名なシカゴ美術館から歩いて五分のところにあるイタリアン・ビレッジというレストランである。1970年代の終わりのシカゴは当時、全米第二位の大都会であったが日本からの進出企業はまだ少なく駐在員も少なかった。

当時シカゴには日本料理屋は3軒しかなく日常的に和食が食べられるような環境ではなかった。しかもその内の一軒はうどんと言えば日本から送られてきたうどん玉を温めて蒲鉾の薄切りを乗せただけで結構な値段をとるといような店であった。ある日そこでうどんを頼み日本から送ってもらったレトルトカレーを温めてうどんに掛けるという裏技を伝授したところ、しばらくして「カレーうどん」が新たにメニューに加わったほどであった。

そんなところだったので前夜の接待で二日酔いの日の昼食に何とか日本人の口に合うものを探すのは大変であった。そこに出会ったのがこの「蛤うどん」なのである。メニューには「リングイーネ・ウイズ・ホワイトクラムソース」と書いてある。パスタの項目ではなく「フルッタ・ディ・マーレ」、つまり海鮮料理の部に載っている。要するに、蛤のホワイトソース仕立てのパスタなのだがパスタのリングイーネが何となくきし麺を彷彿とさせガーリックの効いた多めのスープと一体になって太麺のラーメンを思い出させるのである。イタリア人のマネージャーとしてはなぜこの一皿がこれほどまでに日本人に受けるのか理解できなかつたであろうがとにかく日本人客は全員これにはまった。来る日も来る日もこればかり注文するのである日このマネージャーが我が先輩にこれを日本語では何なのか、と尋ねたところ「蛤うどん！」と答えたのである。それ以来この店ではリングイーネ・ウイズ・ホワイトクラムソースは「蛤うどん」となったのである。

この店はシカゴをアル・カポネが牛耳っていた頃に開店した歴史のある店で店の一番奥の席に座ると未だにアル・カポネの子分が抗争するマフィアに機関銃で撃たれた時についたという、銃弾で抉られた生々しい痕が壁に残っている。そんなもの早く修理すれば良いのにと思うが結構観光客には受けているのでそのままにしているらしい。

イタリア移民の子のアル・カポネをも満足させたリングイーネ・ホワイトクラムソースが半世紀後に「蛤うどん」と名を変えて日本人駐在員の二日酔いの胃袋を満足させていると聞けばカポネは何とと思うであろうか。

ついでに付け加えれば、素面の時に食べる「蛤うどん」も絶品であることは言うまでもない。

幹事会報告

幹事会が復活しました。

3月25日土曜日各期の幹事が30名程集合しました。

各期、クラブOB会から、いろいろな意見が出されました。

同期会、OB会の動き

- ・220名のメーリングリストを作成している(32期)
- ・2009年に同期会を開催した(35期)
- ・バレー部は年一度OBが集まり現役生の観戦や練習視察を実施している。
- ・石吹OBが現役生の練習に参加して、同窓会のアピールをしている

今後の同窓会活動に向けて

- ・同期会を活性化して、同窓会の活性化につなげる。
- ・新校舎や武蔵関公園を訪ねる『ツアー』があればいい。
- ・『きずな』に各期ごとの特集を組んではどうか、自分の事が載っていつと読む。
- ・総会時に知名度のある同窓生の講演会を企画してはどうか。
- ・mixiやFaceBookを活用してはどうか。
- ・部活動の支援を強化してほしい。
- ・同窓会として部活の応援に来たらどうか。
- ・総会、懇親会に先生が出席されると参加者が増えるのではないか。
- ・制服(標準服)や、修学旅行の変遷を紹介してはどうか。

その他

黒菱山荘の活動は聞いたことがあるが中身は知らない。同窓会の存在も知らなかった。(62期)

今後も年に3~4回は幹事会を開催して、幹事会を中心に、年一度の総会、懇親会の企画、広報誌『きずな』の企画を進めて同窓会活動を盛り上げて行きたいと思えます。

幹事が不明の期:22期、26期、34期、37期、41期、42期、44期、45期、46期~53期、55期~58期です。

クラブOB会幹事は、バスケット、吹奏楽部、バレー部、剣道部、以外は、不明です。

それぞれのクラブでOB会を組織している幹事の皆さん、是非幹事会に参加してください。

石神井高校の卒業生同士、いろいろな『きずな』を繋いでいきましょう!!

お心当たりの皆さん!!下記までご連絡ください!!

同窓会副会長 勝見鈴代(高20期)

〒156-0057世田谷区上北沢4-19-18

上北沢ハynesコーポ402

TEL&FAX 03-3329-1037

メールアドレス: suzuyo@vin-mousseux.com

携帯TEL 090-2307-7710

沢山の情報をお待ちしています。

第65回 体育祭開催

2012年6月2日(土) 晴。声が嘎れきった裸足の応援団。泥だらけでぶつかる競技。伝統のスエーデンリレー。そして歓喜の涙、無念の涙、達成感の涙。効率ばかり優先される時代にあって「たかが体育祭」に熱く本気で取り組む姿は感動的でした。石神井は今も健在です



昭和26年製。少し曲がった青山杯のカップは、今もスエーデンリレー勝者に。



同窓会寄贈のテント



今も裸足の応援団



プログラム	
〈午前の部〉	〈午後の部〉
1 開会式	12 マスゲーム演技発表
2 応援歌・エール交換(応援団)	13 風林火山(女子選抜)
3 1年台風の目	14 団対抗リレー
4 走り込み綱引き(男子選抜)	15 関ヶ原の戦い(男子選抜)
5 2年全員リレー	16 1年全員リレー
6 竹取物語(女子選抜)	17 大ムカデ競争(3年)
7 3年全員リレー	18 大縄跳び(2年)
8 1000m 1500m(男女選抜)	19 団長リレー
9 部活対抗リレー	20 デモンストレーション(3年有志)
10 マスコット作品発表	21 青山杯スエーデンリレー
11 応援団演技発表	22 閉会式



編集後記

今回のきずな発行は、少し遅れてのスタートとなり、関係の皆様にご迷惑をおかけしました。深く反省です。

幹事会が復活し、特に若手の幹事を中心にした同窓会を推進して行きたいと思っています。多くの同窓生が年に一度は、母校に帰って、懐かしく、楽しく先輩後輩のきずなを深める会を企画立案していきたいと思っています。

楽しい紙面をと50期のMSさんに

デザインをお願いしていますが、私がデザイン、パソコンまるでダメ。何時も迷惑をかけています。いやにならずこれからもよろしくと願うばかりです。

『編集長はまかせろ!!』という俺、私…いませんか?やってみると、結構おもしろいですよ。ご応募お待ちしております。

(S.K)

『きずな』第61号
 発行人：大久保利一
 編集人：勝見鈴代
 発行所：東京都立石神井高等学校同窓会事務局石神井倶楽部
 〒164-0002
 中野区上高田1-14-7
 TEL03-3319-1121
 印刷所：株式会社 文明社
 ウェブサイト：
www.shakujii-club.gr.jp